

<p>事項</p>	<p>中区において発見された不発弾について</p>
<p>内容</p>	<p>1 不発弾発見に係る対応</p> <p>(1) 発見日時              令和7年2月24日(月)16時00頃</p> <p>(2) 発見に至る経緯              名古屋市中区丸の内二丁目13番4号において、建物解体作業中に工事作業員が不発弾らしきものを発見し、令和7年2月25日(火)8時19分に警察へ通報したものの。              同年2月25日(火)12時55分、陸上自衛隊第103不発弾処理隊により、不発弾と確認された。</p> <p>(3) 不発弾の形状              米国製250キログラム焼夷爆弾              ・信管あり(弾頭、弾底の2箇所)              ・全長120cm、直径36cm</p> <p>(4) 合同対策本部の設置              ア 本部の名称              名古屋市中区不発弾処理合同対策本部              イ 本部長              中区長              ウ 設置日時              令和7年2月14日(金)21時40分              ※不発弾A発見に伴い設置済              エ 合同対策本部全体会議(各関係機関、区政協力委員等が参加)              令和7年3月13日(木)、令和7年4月2日(水)の計2回開催</p> <p>(5) 広報              ア 避難対象区域内の住民等に対して広報チラシを計2回全戸配付              イ 名古屋市公式ウェブサイト、名古屋おしえてダイヤル 等</p> <p>2 処理作業当日(令和7年4月5日(土))における対応</p> <p>(1) 避難対象区域              不発弾処理現場から概ね半径200メートル以内の区域</p> <p>(2) 避難対象世帯数及び人数              964世帯 1,485人</p> <p>(3) 避難場所及び避難者数              丸の内小学校 避難者 4人</p>

事項	<p>名古屋市公民連携サテライトオフィス「NAGOYA FRONTIER TERRACE」の開設及び開所式の開催について</p>
内容	<p>名古屋市と愛知学院大学が締結する包括連携協定に基づく取り組みの一環として、愛知学院大学名城公園キャンパス内に公民連携に関する相談窓口及び共創スペース「NAGOYA FRONTIER TERRACE」を開設します。</p> <p><b>1 名称</b> 名古屋市公民連携サテライトオフィス「NAGOYA FRONTIER TERRACE」</p> <p><b>2 場所</b> 愛知学院大学名城公園キャンパス AGALS タワー2階 名古屋市北区名城三丁目1-1</p> <p><b>3 開所式</b> 令和7年4月10日（木） 午後0時20分から0時50分 愛知学院大学名城公園キャンパス AGALS タワー10階 アガルスホール (1) NAGOYA FRONTIER TERRACE の紹介 (2) 出席者挨拶 (3) 記念撮影 など</p> <p><b>4 その他</b> NAGOYA FRONTIER TERRACE には執務スペースと打ち合わせスペースを備え、総合調整課職員が常駐する予定です。</p> <p>&lt;案内図&gt;</p>  <p>The map shows the location of Nagoya Frontier Terrace at Nagoya City University, Nagoya City University Maikyo Park Campus, AGALS Tower 2F. The map also shows Nagoya City Hall, Nagoya Castle, and the Maikyo Park Station.</p>
備考	<p>本件は、令和7年4月3日に、市政記者クラブへ資料提供しました。</p>

事項	<p>共創まちづくりシンポジウム 2025～名古屋の明るい未来を切り拓く名市大の研究～の開催について</p>
内容	<p>市立大学では、本市との協力・連携により、大学提案型による行政課題・地域課題の解決を目指す「共創まちづくり研究推進事業」を令和6年7月より開始し、学内公募により採択した50件の研究課題に取り組んでいます。</p> <p>このたび、本事業における市立大学と本市との連携事例等を紹介するため、下記の通りシンポジウムを開催します。</p> <p><b>1 日時・場所</b>      令和7年6月3日（火）午後2時～5時30分      デザインホール（ナディアパーク デザインセンタービル3階）</p> <p><b>2 内容</b>      市立大学の研究の中でも市民の生活に身近な研究を中心に、市立大学と本市が連携して取り組む事例に関する講演・ディスカッションを実施する他、会場内にて、研究課題50件のポスター展示を実施します。</p> <p><b>3 対象者</b>      どなたでも（先着250名）      ※事前申込制。ただし、定員に満たない場合は当日も先着で受付。</p> <p><b>4 参加費</b>      無料</p> <p><b>5 申込方法</b>      以下の申込フォームより、必要事項を入力の上、お申込みください。</p> <p><a href="https://www.nagoya-cu.ac.jp/event-list/kyousoumachidukuri-symposium2025/">https://www.nagoya-cu.ac.jp/event-list/kyousoumachidukuri-symposium2025/</a></p>  <p><b>6 申込期間</b>      令和7年4月14日（月）午前10時～5月26日（月）午後5時</p> <p><b>7 問い合わせ先</b>      名古屋市立大学      なごや先端研究開発センター事務局（教育研究部 研究開発課）      電話：052-853-8639 E-Mail：ncu-sentanrdc@sec.nagoya-cu.ac.jp</p> <p><b>8 その他</b>      本シンポジウムへの参加は、研修として取り扱っていただきますようお願いいたします。</p>
備考	<p>本件は、本日、市政記者クラブ及び名古屋市教育医療記者会へ資料提供します。</p>

名古屋市立大学×名古屋市

# 共創まちづくり シンポジウム2025

**参加費  
無料**

※事前にお申込ください



～名古屋の明るい未来を切り拓く名市大の研究～

名古屋市立大学の研究の中でも、環境・子育て・防災・健康など、  
皆様の生活に身近な研究を中心にご紹介します。

これらの研究が、名古屋の未来・市民生活をどう変えるのか？  
大学と行政が連携した取り組みに関するシンポジウムです。

日時

令和7年6月3日(火) 14時～17時30分

会場

デザインホール(ナディアパーク デザインセンタービル3F)

内容

地域課題解決のための取り組み事例について、講演・パネルディスカッション・ポスター展示を実施

定員

250名

申込方法

WEB申込み(先着制)

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/event-list/kyousoumachidukuri-symposium2025/>

申込期間:4月14日(月)午前10時～5月26日(月)午後5時 お申し込みはこちらから▶



問い合わせ先

名古屋市立大学 教育研究部研究開発課 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL:052-853-8639  
E-mail: ncu-sentanrdc@sec.nagoya-cu.ac.jp

主催

名古屋市立大学・名古屋市

# プログラム

14:00 オープニング ● 開会挨拶～事業説明

14:15 講演

- ①「公園のチカラ」  
～まちを涼しく、心地よくする緑の役割と知っておきたいこと～  
名古屋市立大学大学院 データサイエンス研究科 教授 辰己賢一
- ② 名古屋市の子ども・子育て政策のあゆみ  
～オーラルヒストリーから見てきたこと～  
名古屋市立大学大学院 人間文化研究科 准教授 松村智史
- ③ インクルーシブな防災支援の確立を目指して  
～防災意識尺度の多言語化～  
名古屋市立大学大学院 看護学研究科 准教授 秋山直美
- ④ 未来の子どもの健康と子育て環境の向上をめざして  
～地域との連携による調査研究の推進～  
名古屋市立大学大学院 医学研究科 教授 上島通浩

15:35 休憩

15:55 パネルディスカッション

## 「社会課題解決への挑戦：データ活用型研究」

名古屋市立大学が、名古屋市の保有する様々なデータや、市民を対象としたアンケート結果を解析することで、市民の生活はどう変わるのか。これまでの連携実績や将来展望について、市職員も交えたディスカッションを行います。

ファシリテーター  
名古屋市立大学大学院  
データサイエンス研究科  
教授 横山清子

16:50 ステージ終了

## 【ポスター展示】

地域課題解決に向けた50の研究課題についてポスター展示します。  
17:30まで、ご自由にご観覧いただけます。

17:30 閉場

## 会場のご案内

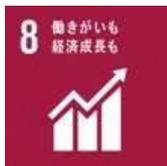


### ■ 電車をご利用の方

地下鉄東山線  
栄駅 サカエチカ S8出口  
階段を上がってすぐを左折 徒歩約7分  
※地下鉄8番出口とは異なります

地下鉄名城線  
矢場町駅 6番出口  
階段を上がって進行方向へ  
最初の信号を左折 徒歩約5分

事項	市役所庁舎の庁内放送の楽曲変更について																																
内容	<p><b>1 趣 旨</b></p> <p>市役所庁舎における庁内放送にて使用している楽曲について、令和7年1月から2月にかけて職員の皆さまを対象にアンケートを実施いたしました。その結果を踏まえ、昼の庁内放送を「あなたの街・名古屋」から、以下のとおり一定期間変更して放送します。</p> <p><b>2 放送予定</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">時期</th> <th style="text-align: center;">曲名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和7年5月中旬頃</td> <td>「四季」より春</td> </tr> <tr> <td>令和7年6月中旬頃</td> <td>G線上のARIA</td> </tr> <tr> <td>令和7年7月中旬頃</td> <td>THEME FROM A SUMMER PLACE（夏の日の恋）</td> </tr> <tr> <td>令和7年9月中旬頃</td> <td>祝祭交響曲～あいち・なごやスポーツ応援ソング</td> </tr> <tr> <td>令和7年10月下旬頃</td> <td>でら讚！～derazan～</td> </tr> </tbody> </table> <p>※放送時期は著作権等の手続きにより変更となる場合があります。</p> <p><b>3 その他</b></p> <p>各局室のPRソングについては、引き続き放送を行いますので、希望がある場合はご依頼いただきますようお願いいたします。</p> <p><b>(参考) アンケート概要・結果</b></p> <p><b>【概要】</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td>回答期間</td> <td>令和7年1月27日（月）～2月7日（金）</td> </tr> <tr> <td>集計方法</td> <td>ロゴフォーム（庁内イントラネットを利用）</td> </tr> <tr> <td>回答数</td> <td>294</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【結果】</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">曲名</th> <th style="text-align: center;">回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あなたの街・名古屋</td> <td style="text-align: center;">109</td> </tr> <tr> <td>THEME FROM A SUMMER PLACE（夏の日の恋）</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td>祝祭交響曲～あいち・なごやスポーツ応援ソング</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> <tr> <td>でら讚！～derazan～</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>G線上のARIA</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>「四季」より春</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>	時期	曲名	令和7年5月中旬頃	「四季」より春	令和7年6月中旬頃	G線上のARIA	令和7年7月中旬頃	THEME FROM A SUMMER PLACE（夏の日の恋）	令和7年9月中旬頃	祝祭交響曲～あいち・なごやスポーツ応援ソング	令和7年10月下旬頃	でら讚！～derazan～	回答期間	令和7年1月27日（月）～2月7日（金）	集計方法	ロゴフォーム（庁内イントラネットを利用）	回答数	294	曲名	回答数	あなたの街・名古屋	109	THEME FROM A SUMMER PLACE（夏の日の恋）	20	祝祭交響曲～あいち・なごやスポーツ応援ソング	16	でら讚！～derazan～	4	G線上のARIA	3	「四季」より春	3
時期	曲名																																
令和7年5月中旬頃	「四季」より春																																
令和7年6月中旬頃	G線上のARIA																																
令和7年7月中旬頃	THEME FROM A SUMMER PLACE（夏の日の恋）																																
令和7年9月中旬頃	祝祭交響曲～あいち・なごやスポーツ応援ソング																																
令和7年10月下旬頃	でら讚！～derazan～																																
回答期間	令和7年1月27日（月）～2月7日（金）																																
集計方法	ロゴフォーム（庁内イントラネットを利用）																																
回答数	294																																
曲名	回答数																																
あなたの街・名古屋	109																																
THEME FROM A SUMMER PLACE（夏の日の恋）	20																																
祝祭交響曲～あいち・なごやスポーツ応援ソング	16																																
でら讚！～derazan～	4																																
G線上のARIA	3																																
「四季」より春	3																																
備考																																	



事項	令和7年度「Hatch Technology NAGOYA」課題提示型支援事業に係る庁内課題の募集について																								
内容	<p>本市では、先進技術社会実証支援事業「Hatch Technology NAGOYA」において、庁内課題に対して先進技術を活用して解決を図る「課題提示型支援事業」と本市施設等を社会実証フィールドとして活用する「フィールド活用型支援事業」の社会実証をそれぞれ実施しております。</p> <p>このたび、令和7年度「課題提示型支援事業」の庁内課題を下記の通り募集します。今年度も1件あたりの負担金上限額を行政課題は150万円、社会課題は300万円として募ることとしていますので、先進技術を活用して解決したい課題をご提出ください。</p> <p>また、昨年度実施した社会実証の報告書が完成しましたので、併せてお知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p><b>1 今年度募集する課題</b></p> <table border="1" data-bbox="316 1093 1420 1440"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>件数</th> <th>実証事業者への支援の上限額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">行政課題</td> <td>4件</td> <td>1,500千円/件</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">社会課題</td> <td>一般</td> <td rowspan="3">4件</td> <td rowspan="3">3,000千円/件</td> </tr> <tr> <td>グリーン化</td> </tr> <tr> <td>DX</td> </tr> </tbody> </table> <p>※行政課題とは行政における業務改善やサービス向上に関する課題、社会課題とは社会が抱える様々な分野における課題のこと。 ※実証にかかる費用のうち、市（経済局）は実証事業者に対して上記の上限額まで負担します。</p> <p><b>2 事業スケジュール（予定）</b></p> <table border="1" data-bbox="316 1668 1420 1933"> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>庁内課題の募集（～5月9日）</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>庁内課題の選定・課題のブラッシュアップ</td> </tr> <tr> <td>6月～7月</td> <td>企業等の募集・課題説明会の実施</td> </tr> <tr> <td>8月～2月</td> <td>実証プロジェクトの選定・実施</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>成果報告会の実施</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>3 昨年度実施した社会実証の報告書</b> 別添のとおり</p>	区分		件数	実証事業者への支援の上限額	行政課題		4件	1,500千円/件	社会課題	一般	4件	3,000千円/件	グリーン化	DX	4月	庁内課題の募集（～5月9日）	5月	庁内課題の選定・課題のブラッシュアップ	6月～7月	企業等の募集・課題説明会の実施	8月～2月	実証プロジェクトの選定・実施	3月	成果報告会の実施
区分		件数	実証事業者への支援の上限額																						
行政課題		4件	1,500千円/件																						
社会課題	一般	4件	3,000千円/件																						
	グリーン化																								
	DX																								
4月	庁内課題の募集（～5月9日）																								
5月	庁内課題の選定・課題のブラッシュアップ																								
6月～7月	企業等の募集・課題説明会の実施																								
8月～2月	実証プロジェクトの選定・実施																								
3月	成果報告会の実施																								

<専用ウェブサイト>

<https://www.hatch-tech-nagoya.jp/>



<令和6年度課題提示型支援事業実証プロジェクト一覧>

内

容

区分	課題名	実証事業者	市担当部署
行政課題	ストレスを可視化して、職員のメンタルヘルス不調を未然に防止したい！	Zero To Infinity(株)	総務局 安全衛生課
	違法で危険な”盛土”を早期発見！衛星データやAIを活用し効率的に監視したい	(株)Solafune	住宅都市局 開発指導課
	交通事故ゼロの未来へ！新技術で実現する道路維持管理	(株)スマートシティ 技術研究所	緑政土木局 道路維持課
	外国人のお客様も「みて、ふれて、たしかめて」ができる科学館へ！多言語対応を実現したい！	(株)Algomatic	教育委員会事務局 科学館 総務課
社会課題	持続可能な未来の水辺を楽しみたい！最新技術を使ってなごやの水辺の魅力を創出したい【グリーン化】	(株)ダイイチ	住宅都市局 名港開発振興課
	混雑予測でトイレ・飲食店の混雑を緩和し、ポートメッセなごやの満足度UPを目指したい【DX】	東海テレビ放送(株)	観光文化交流局 M I C E 推進課
	地域活動に対する思いを可視化して、参加したくなる地域活動づくりへ！	(株)はこぶん	スポーツ市民局 地域振興課
	データで自転車通行空間の効果と課題を可視化し、快適に走れるナゴヤへ	(株)長大 チャリチャリ(株)	緑政土木局 自転車利用課

備考

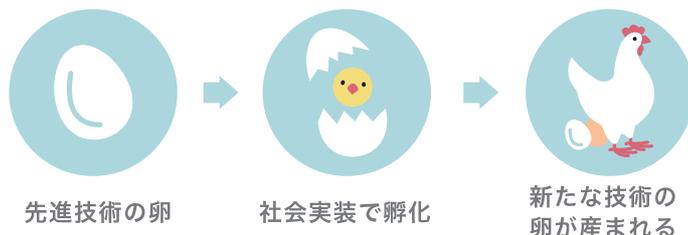
事業の詳細は、本日付け、企画調整担当課長及び区企画経理課長宛てお知らせします。

(経済局イノベーション推進部次世代産業振興課 内線 2418)  
 (総務局行政 DX 推進部デジタル改革推進課 内線 2267)  
 (総務局総合調整部総合調整課 内線 2215)



# Hatch Technology NAGOYAとは

「Hatch (ハッチ)」とは「かえす、孵化する」を意味します。この「Hatch Technology NAGOYA」は、先進技術の社会実証を支援することで技術の研究開発や社会実装を促進していくもので、「課題提示型支援事業」「フィールド活用型支援事業」の2つの事業を実施しています。この名古屋から、先進技術という「卵」を社会実装という形でどんどん「孵化」させていくことを目指します。



各事業の詳細については、下記のページをご覧ください。

## 1 課題提示型支援事業

詳細は P. 2 ~ 6

## 2 フィールド活用型支援事業

詳細は P. 7 ~ 10

## 成果の発信

「Hatch Technology NAGOYA」では、先進技術の有用性を広く市民に周知することで、技術に対する市民の理解を深め、普及の後押しとなるよう、実証内容および成果の発信につとめています。

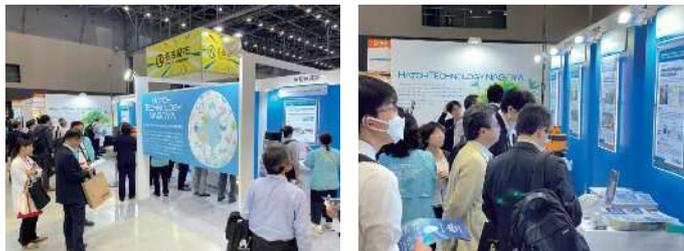
### ● 展示会出展（メッセナゴヤ2024）

2024年10月30日～11月1日（3日間）

ポートメッセなごやで開催された異業種交流展示会「メッセナゴヤ2024」にブース出展しました。過去に本事業で実証実験を行った企業のうち6社に出展いただき、実証内容やその後の事業展開などについて紹介いただきました。

#### 出展企業（6社）【実証年度】

イクスアール株式会社 [2022]  
有限会社来栖川電算 [2023]  
佐川急便(日本ガイシ・SGシステム) [2022]  
名古屋工業大学白松研究室 [2023]  
株式会社スピード [2021]  
株式会社平泉洋行 [2022]



### ● 成果発表会

2025年3月24日

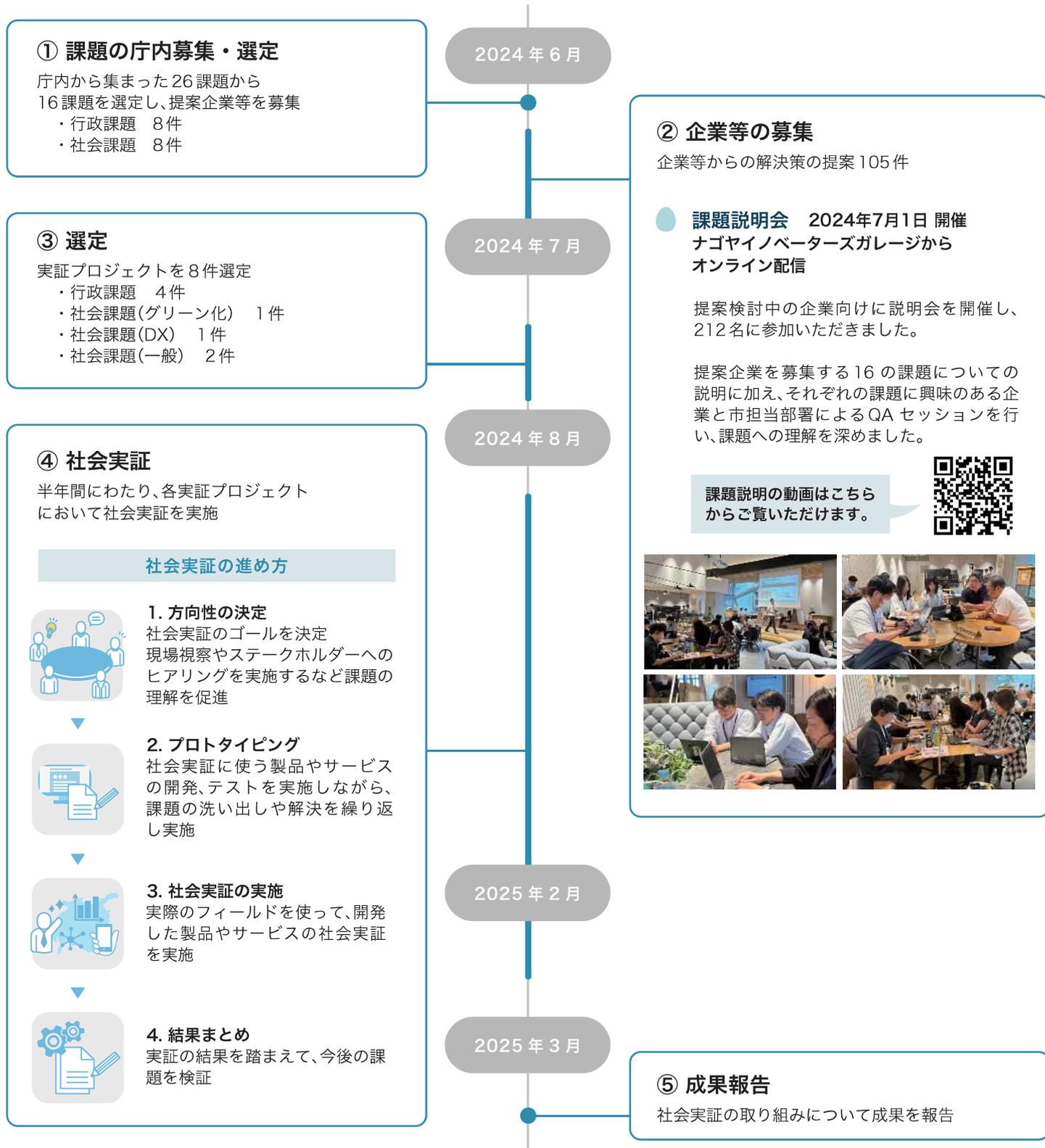
本年度の実証プロジェクト14件について、各プロジェクトが取り組み内容および成果を発表しました。  
※オンライン配信あり  
会場(ナゴヤイノベーションズガレージ)では、実証技術の紹介ブースも設けました。

# 1 課題提示型支援事業

本市が提示する行政課題、社会課題(グリーン化及びDXに関する課題を含む)に対して先進技術を活用した解決策を持つ企業等を広く募集し、選定した実証プロジェクトに対する費用の一部負担や実証に必要な調整等の支援を実施する事業です。

本年度は、8件の実証プロジェクトを実施しました。  
(各プロジェクトの詳細は3～6ページに掲載)

## 経緯と実績



## 行政課題

### 1 ストレスを可視化して、職員のメンタルヘルス不調を未然に防止したい!

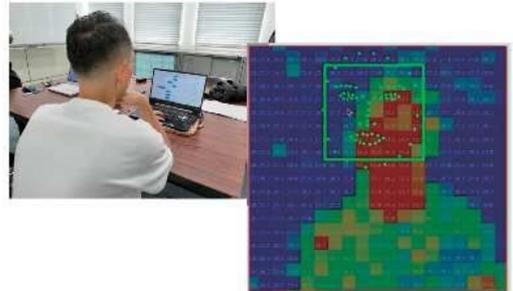
#### 解決したい課題

名古屋市ではメンタルヘルス不調による休職者数が増加傾向にあるため、効果的な対策を講じる必要がある。不調の兆候を捉え、悪化前に自身での対処に結びつけられる仕組みづくりを目指す。

実証事業者：Zero To Infinity 株式会社  
市担当部署：総務局 安全衛生課

#### 実証内容

職員が自身のストレスに気づけるように、筋肉の微細な変化からストレスを客観的に把握する「画像解析 xAI」の技術を活用した。研修等の機会や執務室においてストレス状況を計測し、計測結果を本人に提供することで、セルフケアに対する意識の変化を検証した。



#### 成果

研修等における体験者の約70%がセルフケアの必要性を実感し、約77%がセルフケアのための行動変容の意識が高まったと回答した。一方で、執務室での継続的な計測においては、計測意欲の維持や行動変容に至るための意識付けが課題であり、計測時間の長さや解析結果の納得度などの点において改善が必要であることが示された。



#### 今後の展開

研修等における計測体験は、セルフケアの認知度および実践率の向上に一定の効果が期待できる結果となったため、実施についての検討を進めていく。一方、継続的な計測方法については、引き続き技術面・環境面での改善を目指す。

## 行政課題

### 2 違法で危険な“盛土”を早期発見! 衛星データやAIを活用し効率的に監視したい

#### 解決したい課題

盛土規制法の運用開始に伴い、規制区域が全市域に拡大し、盛土監視の業務量が大幅に増加する。限られた人員では日常的な監視が困難になると予想されるため、効率的な監視手法が求められている。

実証事業者：株式会社 Solafune  
市担当部署：住宅都市局 開発指導課

#### 実証内容

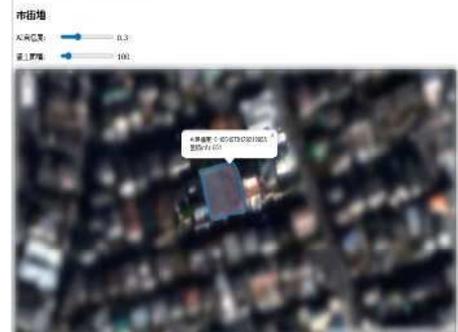
衛星画像処理技術とAIによる解析技術を組み合わせ、市街地の盛土を検出するシステムを新規開発した。市内の100km<sup>2</sup>の領域を対象に、光学衛星画像を用いて解析を行い、盛土の可能性のある箇所についての検出精度と作業効率を検証した。



#### 成果

市域全体(約326km<sup>2</sup>)に換算すると約700時間必要な目視調査を、数時間以内の作業で代替できるような解析技術を開発することができ、検出精度も約70%を達成した。都市部は様々な構造物や土地利用形態を有することから解析難度が高く、高度な衛星画像解析技術を用いて検出精度の向上を図った。

名古屋市盛土予測マップ



#### 今後の展開

今後の開発ステップとしては、農地エリアでの検出精度向上のための技術改善や追加学習、盛土の高さなどを考慮した危険性・違法性判定の技術検証などが挙げられる。実運用に向けた検討を進めていく。

## 行政課題

### 3 交通事故ゼロの未来へ！新技術で実現する道路維持管理

#### 解決したい課題

道路に設置した区画線など路面標示の劣化状況を効率的に把握し、計画的かつ効率的な修繕に活用したい。現在のパトロールでは目視に頼る部分が大きく、効率性や正確性の向上が課題となっている。

#### 実証内容

市内2つの区において車載カメラで前方画像を撮影し、AI解析によって区画線や路面標示の劣化状況を把握する技術を検証した。さらに画像の鳥瞰変換により区画線の剥離率を定量評価する技術、正常な区画線・路面標示の種類や延長を検出する技術も開発した。

#### 成果

鳥瞰変換による区画線の剥離率評価では、90%以上の精度で自動算出を実現した。前方画像の解析では、区画線と路面標示について、劣化箇所（剥離・かすれ）を検知し劣化レベルの診断ができたほか、正常区間の把握についても精度97%で実現でき、補修計画の精度向上にも貢献することが示された。

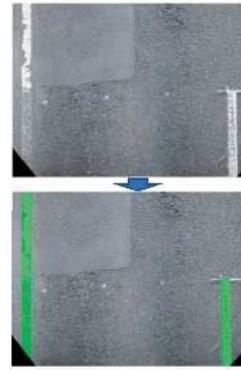
#### 今後の展開

今後は対象を市内全区に展開し、正常箇所と劣化箇所を同時に把握することで優先的な修繕箇所を明示化して、計画的な区画線修繕に役立てていく。また、当技術を応用し、区画線以外の道路施設の維持管理を効率化することも視野に入れる。

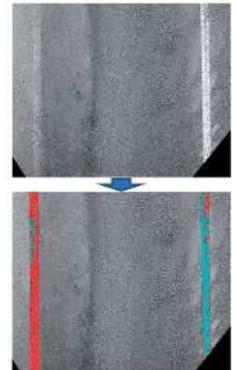
実証事業者：株式会社スマートシティ技術研究所  
市担当部署：緑政土木局 道路維持課



・AI車線認識技術



・AI剥離率解析技術



## 行政課題

### 4 外国人のお客様も「みて、ふれて、たしかめて」ができる科学館へ！多言語対応を実現したい！

#### 解決したい課題

名古屋市科学館では、増加する外国人来館者数に対し、展示品や実演の多言語対応が課題となっている。実演等における言語の壁を取り払い、平等な科学体験と学びの機会の提供を目指す。

#### 実証内容

AIによるリアルタイム翻訳システムを独自開発し、実演ショーに試験導入した。また、翻訳技術を活用した展示品の多言語解説動画の提供や、通訳アプリを使った外国人への接客も実施し、外国人来館者の体験価値向上を目指した。

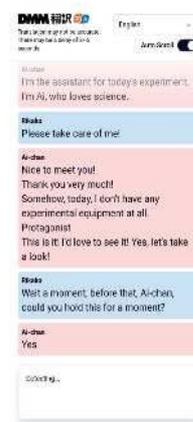
#### 成果

展示品の解説動画は、最新の生成AI技術を用いることで、専門的な内容を自然かつ正確な表現で翻訳することができた。実演ショーでは、翻訳のタイムラグと精度のバランスにおいて試行と改善を重ねた結果、複数話者の掛け合いでもリアルタイム翻訳が可能となり、観客の実演内容理解の一助となることができた。

#### 今後の展開

リアルタイム翻訳は実演ショー全体の理解度向上に寄与できたが、翻訳精度とタイムラグの面で改善の余地があるため、引き続き調整していく。通訳アプリが接客の質の向上に大きく貢献できたことも踏まえ、今後も継続して科学館の多言語対応に取り組んでいく。

実証事業者：株式会社 Algomatic  
市担当部署：教育委員会事務局 科学館 総務課



## 一 社会課題（グリーン化）一

### 5 持続可能な未来の水辺を楽しみたい！最新技術を使ってなごやの水辺の魅力を創出したい

#### 解決したい課題

中川運河や堀川の水上交通において、環境負荷を低減させ、よりよい乗船体験を提供したい。先進的な技術を取り入れた水上モビリティの活用により、水辺の魅力を向上させ、にぎわい創出を目指す。

#### 実証内容

電動推進機を搭載した船を用いて、CO<sub>2</sub>排出量や騒音・航続距離・充電時間などの環境および運用性能を測定し、都市部の運河での実用性やガソリン船と比較しての優位性を検証した。また、体験乗船会を開催し、水辺の魅力創出に寄与するか検証を行った。

#### 成果

現地での測定の結果、CO<sub>2</sub>排出量削減や騒音・振動の低減を達成しており、持続可能な水上交通としての有用性を証明できた。燃費については、ガソリンに対し電気代の方が下回る可能性があると確認できた。電動推進機搭載船は静音性が高いため、船上での楽器演奏など新たな水辺の楽しみを提供できた。乗船者の満足度も高く、電動推進機搭載船が水辺の魅力創出に貢献できることが示された。

#### 今後の展開

新たなモビリティの導入に向けては、運河における新規航路や船舶係留・乗降設備等の設置手続き、運営体制の構築などが課題となるが、活用場面の開拓とともに、水辺の魅力づくりのため引き続き先進技術の活用や企業との連携にも取り組んでいく。

実証事業者：株式会社ダイイチ  
市担当部署：住宅都市局 名港開発振興課



## 一 社会課題（DX）一

### 6 混雑予測でトイレ・飲食店の混雑を緩和し、ポートメッセなごやの満足度UPを目指したい

#### 解決したい課題

金城ふ頭エリアの大規模イベント時にトイレや飲食店の混雑が偏る問題を解決し、来場者の利便性向上を図る。適切な誘導により施設の混雑を分散させ、ポートメッセなごやの満足度向上に繋げる。

#### 実証内容

高性能ビーコンを活用し、スマートフォンの電波を検知して人の流れを分析した。解析結果から得られたリアルタイムの混雑状況を、会場に設置したディスプレイやウェブサイトを通じて来場者へ提供し、混雑緩和に寄与するか検証した。

#### 成果

検知手法の調整や掲示による告知など様々な工夫により、来場者にトイレの空き状況を伝えることはでき、その情報をもとに移動する来場者も見られたものの、緊急度や天候、待ち時間の過ごし方など様々な要因によって行動変容に至らない場合も多かった。また、情報のリアルタイム性にも課題が残った。

#### 今後の展開

高性能ビーコンではトイレの待機列と通行者・滞留者の区別の見極めが難しいが、エリア内の人流把握や周遊実態などの把握には活用できることが分かった。今回の分析結果を、今後の対策や域内経済の活性化に活用していきたい。

実証事業者：東海テレビ放送株式会社  
市担当部署：観光文化交流局 MICE 推進課



## — 社会課題 —

### 7 地域活動に対する思いを可視化して、参加したくなる地域活動づくりへ！

#### 解決したい課題

地域活動の参加者減少や町内会の加入率低下が課題となっている。従来型のアンケートでは把握しづらい市民の本音を収集することで、地域活動の課題やニーズを的確に捉え、持続可能な仕組みを構築する必要がある。

#### 実証内容

市民の率直な意見を収集する専用投稿ツールと、AIによる感情分析で、課題やニーズを可視化する実証を行った。地域活動のような幅広いテーマに対して集められた非構造的かつ大量のテキストデータから、意味のある情報を抽出する分析技術の有用性を検証した。

#### 成果

約1,200件・約17万文字の市民からのご意見を収集し、AI感情分析により効率的に分類・可視化を実現できた。分析結果の分類など一部人手による作業は残るものの、従来のアンケートでは得られなかった細かなニーズや課題を抽出し可視化することができた。併せて市民に対する分析結果のフィードバックも試みた。

#### 今後の展開

今後は、分類精度の向上や、リアルタイム分析およびアラート機能の実装など、市民の声をすぐに拾い上げ活動に活かしていけるよう機能強化を目指す。また、多くの市民が参加したくなる地域活動の仕組みを構築するために、実証結果を活用していく。

実証事業者：株式会社はこぶん  
市担当部署：スポーツ市民局 地域振興課



## — 社会課題 —

### 8 データで自転車通行空間の効果と課題を可視化し、快適に走れるナゴヤへ

#### 解決したい課題

名古屋市では自転車通行空間の整備を進めているが、整備効果の検証が課題となっている。手作業での調査は業務負荷が大きく、調査範囲や時間の制約から限定的な調査に留まっている。

#### 実証内容

ビッグデータ解析技術を活用してシェアサイクルのGPSデータを分析し、自転車通行空間の利用実態、整備前後の通行量変化を把握できるか検証した。観測調査や利用者アンケート、従来の交通センサデータとの相関をみることで分析結果の信頼性を検証した。

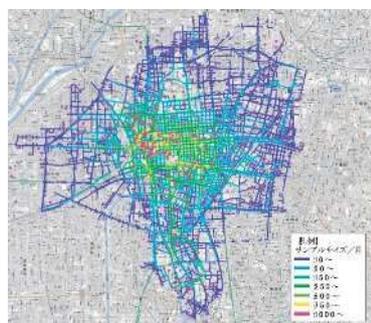
#### 成果

自転車通行空間の整備前後で、整備路線と周辺路線との利用分担率の変化を把握することができた。車道と歩道の分担率変化の捕捉や、交通量調査との整合性については課題が残ったが、従来の調査に比べ広範囲かつ長期間のデータ収集と分析が容易になり、自転車ネットワークの利用状況の可視化に有用であることが示された。

#### 今後の展開

自転車ネットワークの利用状況に加えて、安全性の評価やサービスレベルの可視化も行えることが実証され、今後の整備計画への活用可能性も示された。快適で安全に走りやすい自転車通行空間実現のための分析基盤となることが期待される。

実証事業者：株式会社長大  
チャリチャリ株式会社  
市担当部署：緑政土木局 自転車利用課

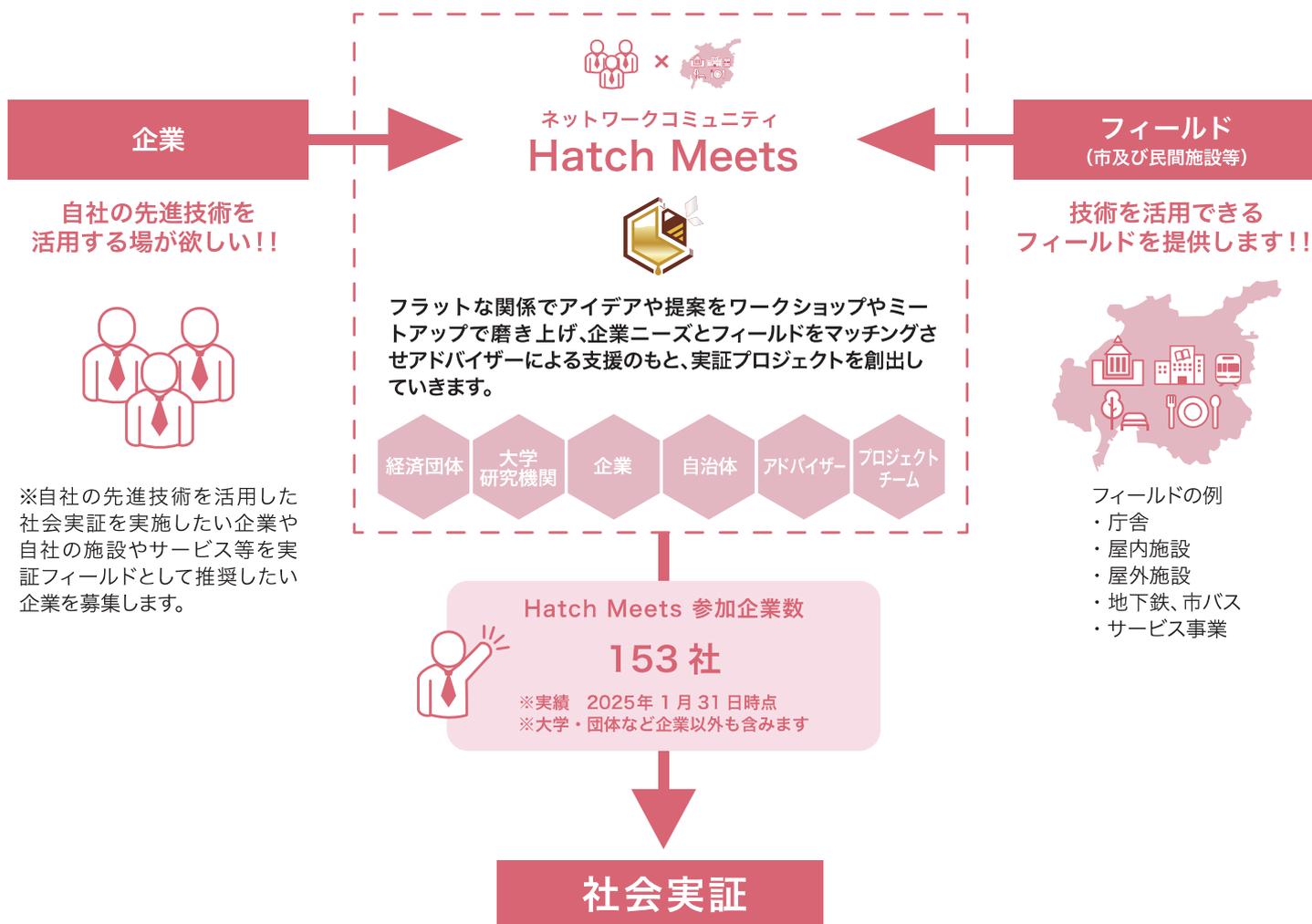


## 2 フィールド活用型支援事業

本市及び民間施設等を社会実証の場(フィールド)として活用するための、場の提供と課題の整理・解決をするネットワークコミュニティ「Hatch Meets(ハッチミーツ)」を産学官で立ち上げ、先進技術を有する企業等の提案や実証ニーズを実現します。

本年度は、新たに6件の実証プロジェクトを創出しました。  
(各プロジェクトの詳細は8～10ページに掲載)

### 事業イメージ



### リアル開催イベント「Hatch Meets UP!」



コミュニティの活性化や実証プロジェクトの創出のため、参加者が直接交流できるイベントを開催しました。

会場：ナゴヤイノベーションズガレージ

第1回 2024年7月8日 新年度キックオフ＆出会う

第2回 2024年7月23日 関わりをつくる

第3回 2024年8月1日 プロジェクトの立ち上げ

第4回 2024年8月19日 プロジェクトの磨き上げ

## 1 生成AIと音環境分析を用いたマッチングシステムの検証

### 実証実験のゴール

生成 AI による論点可視化やナレッジグラフを活用することで、大規模ワークショップにおける参加者のリソースやスキルを整理し、新たな協働の可能性を発見・促進する。

### 実証内容

ワークショップの机上にタマゴ型レコーダーを配置し、会話の記録と音声認識を行った。生成 AI を活用し、認識結果からマッチングの可能性や活動計画を出力するシステムを構築した。システムの実現性検証として、マッチングや活動計画の推薦精度を評価した。

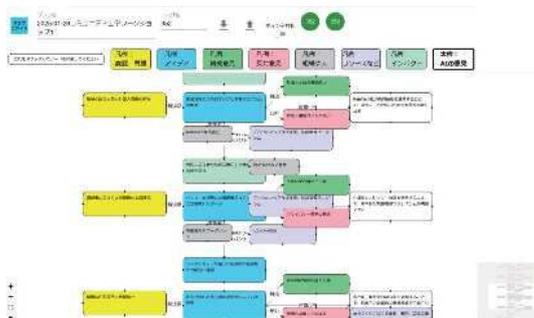
### 成果

4 回のワークショップを重ね、改善を加えながらマッチング精度を高める工夫を導入した。その結果、音声情報を整理するには生成 AI の正確性を重視し、マッチングを推定するには創造性を高める調整が必要であることが分かった。さらに、これらを組み合わせることで、より高いマッチング精度が得られることが確認された。

### 今後の展開

マッチングの可能性や提案の精度を高めるため、生成 AI の調整を最適化し、協働・共創を促進する AI の社会実装を進める。Web からの情報やワークショップでの発言の信頼度を考慮し、より正確で実用的なマッチング支援を実現するため、システムの改善と検証を行う。

実証事業者：国立大学法人名古屋工業大学白松研究室  
 ハイラブル株式会社  
 フィールド提供者：経済局 次世代産業振興課  
 (ワークショップ「Hatch Meets UP！」)



## 2 コミュニティでの向社会的行動に関する仮説検証と EBPM 支援技術への応用可能性の検討

### 実証実験のゴール

地域コミュニティにおける向社会的行動（他者や社会のためになる行動）を促進する要因を科学的に解明し、エビデンスに基づく政策（EBPM）を支援する技術を開発する。

### 実証内容

市民を対象として、地域コミュニティに関する調査を実施し、分析と結果の活用を試みた。アンケート調査により向社会的行動を分析するとともに、生成 AI 技術を用いて回答の要点を抽出し社会シミュレーションモデルへ応用する手法について、妥当性を検証する。

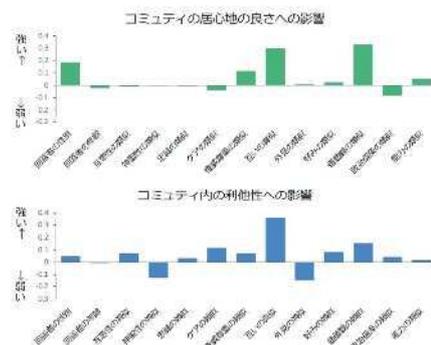
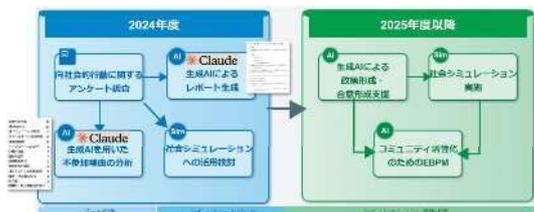
### 成果

特徴の異なる3つの学区を選定し、段階的に調査分析を実施した。住民へのアンケート調査を行い、生成 AI を用いて回答からの特徴抽出と分析レポート作成を実施した。分析結果から向社会的行動の要因を特定しシミュレーションモデルに取り入れることで、EBPM 支援技術の実用化に向けた検討を本格化させていく。

### 今後の展開

今年度の実証で得られた知見を基に、社会シミュレーションの開発や、より広範な地域での実証実験を計画している。これらの取り組みを通じて、科学的根拠に基づく地域政策の立案と実施を支援する新しい手法の確立を目指す。

実証事業者：国立大学法人名古屋工業大学  
 コミュニティ創成教育研究センター  
 小田研究室、白松研究室  
 情報工学類 武藤研究室  
 フィールド提供者：スポーツ市民局 地域振興課  
 (市内3学区)



### 3 名古屋の道路を守る基盤へのプローブデータ活用

#### 実証実験のゴール

コネクティッド車両の運転支援データを、名古屋市の区画線維持業務等に活用することを旨とする。さらに、継続的なデータ利用による市内の安全対策計画への活用を検討する。

#### 実証内容

検証対象の道路を実走し、区画線の状態を撮影するとともに、LDA (Lane Departure Alert、区画線等を認識し車線逸脱の警告を発出する) のデータを収集した。LDA の認識率から区画線の劣化を推定することを旨とし、実際の区画線の状態との比較検証を実施した。

#### 成果

片側1車線および片側3車線の道路に対して、一部課題は残るものの、LDA での認識率と実走にて収集した区画線の状態との相関が概ね確認できた。また、アスファルト舗装の道路だけでなく、明度が高く白線とのコントラストが弱いコンクリート舗装の道路においても、区画線を認識できることが確認できた。

#### 今後の展開

LDA 情報の区画線維持業務への活用について、技術検証とともにコストも含めた事業の成立可能性を検討する。黄色センターラインをはじめ様々な路面標示へ対象を展開し、劣化判定技術の活用拡大や、さらには交通事故ゼロに向けた取組みについても進めていく。

実証事業者：トヨタ自動車株式会社  
フィールド提供者：緑政土木局 道路維持課



### 4 廃棄物運搬に着目した大型ドローンの活用に関する実証

#### 実証実験のゴール

送電施設点検で実績のある大型ドローンを活用し、廃棄物やスクラップの運搬における新たな可能性を探る。撤去予定の建物内での廃棄物運搬を想定し、基礎的な技術検証を実施する。

#### 実証内容

工場内での運搬スペースや飛行経路を確認し、水平・垂直方向の移動について検証した。様々な廃棄物の運搬方法を検討し、運搬可能な条件を明確化するとともに、コスト分析や技術課題の整理を行い、ドローン運搬の実現可能性を検証した。

#### 成果

重量や形状の異なる複数の廃棄物に対して、水平方向・垂直方向への運搬が可能であることを実証した。運搬用ドローンの屋内飛行、また廃棄物のドローンによる運搬は新規性の高い試みであったが、指定箇所への運搬および着陸を問題なく実現した。事業化へ向けたいくつかの課題はあるものの、次回実証へ向けた第一歩となった。

#### 今後の展開

実証を通じて明らかになった技術的な課題や運用上の注意点を整理し、実用化に向けたロードマップを作成する。環境負荷が少なく、効率的な運搬手段の確立を目指すとともに、将来的には、多様な物資をドローンで運搬できる新しいビジネスモデルに結びつける。

実証事業者：中部電力パワーグリッド株式会社  
中部精機株式会社  
フィールド提供者：株式会社アビツ



### 5 サーマルカメラを用いた人物追跡による行動状況の把握

#### 実証実験のゴール

サーマルカメラと AI 技術を組み合わせ、夜間や照明の少ない環境でも効果的に機能する新しい監視システムの開発を目指す。特に、工場などにおける金属盗難などの被害防止に焦点を当てている。

#### 実証内容

工場内で模擬的に犯行場面を再現し、サーマルカメラでの撮影画像と人物追跡 AI による解析技術が、防犯に寄与できるかを検証した。不審者認識の誤認率 30% 未満を目標に、人物の挙動解析を実施し、精度評価を実施した。

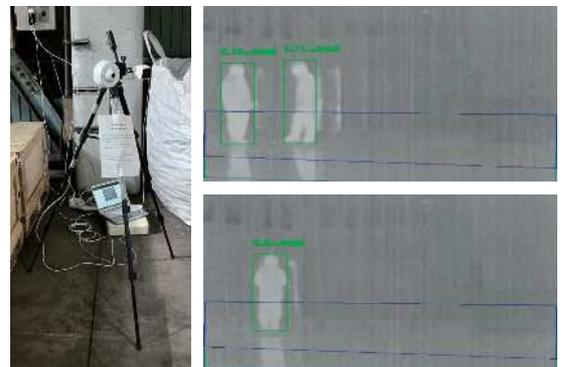
#### 成果

サーマルカメラの映像解析に特化した AI を開発し、精度評価を実施した。誤検知率についての目標は達成できたことから、見逃し率の改善など更なる精度向上のために開発研究を継続している。また解析システムをデバイスに搭載することでリアルタイム解析に繋げ、様々な業界に応用することを目指している。

#### 今後の展開

サーマルカメラ映像からの性別・年齢推定や不審者レベル判定などの機能を開発し、より高度な解析システムを目指す。また本プロジェクトで得られた知見を、他の産業施設やインフラ設備の監視システムへ応用することを視野に入れ、継続的に開発に取り組んでいく。

実証事業者：株式会社インテジテクノスフィア  
株式会社インテジホールディングス  
フィールド提供者：株式会社アビツ



### 6 振動センサによる橋梁健全度診断の効率化に向けた実証実験

#### 実証実験のゴール

近接目視で得られる情報をもとに行う橋梁の健全度診断において、手軽な振動センサーでの計測と結果解析により橋梁内部や表面の状態を把握する技術を取り入れ、診断の効率化の糸口をつかむ。

#### 実証内容

名古屋市内の橋梁で振動センサーを用いた測定を実施した。歩道上の橋脚間の中間地点にセンサーを配置し、自動車や歩行者の通行によって生じる振動のデータを取得した。測定結果に対して周波数分析や非定常スペクトル分析を実施し、健全度との関係検証に用いることとした。

#### 成果

近々に補修工事を予定している4つの橋梁にて計測を実施した。簡単に設置し計測できるセンサーで振動シグナルを取得でき、従来の分析方法による強度評価も踏まえて、計測データから強度評価のための特徴的な波形成分を抽出した。その特徴量を類似構造の橋梁間で比較することで、健全度との相関を検証していく。

#### 今後の展開

対象の橋梁で予定されている補修工事の完了後に再度データを収集し、補修に伴う橋梁強度の変化を検証することで、橋梁の健全度と相関の高い特徴量の特定を目指す。さらに作業効率を高めるため、ドローンによる画像確認検査との連携などの検討を進める。

実証事業者：株式会社中電シーティーアイ  
フィールド提供者：緑政土木局 橋梁施設課  
(市内橋梁)



問い合わせ



名古屋市  
City of NAGOYA

〒460-8508

愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

名古屋市経済局イノベーション推進部

次世代産業振興課

TEL: 052-972-2418

Mail: a2417@keizai.city.nagoya.lg.jp

Web サイト

<https://www.hatch-tech-nagoya.jp/>





幹部会報告事項  
令和7年4月7日  
総務局  
経済局

事項	令和7年度 首都圏出張時の企業訪問・企業情報の収集について								
内容	<p>1 概要 全局職員による企業誘致推進のため、首都圏へ出張等の機会を捉え、企業訪問による企業情報の収集を実施していただくよう依頼します。</p> <p>2 対象職員 首都圏へ出張する課長級以上の職員</p> <p>3 依頼事項 首都圏出張時における企業訪問・企業情報の収集</p> <p>※経済局（産業立地交流課）にて、企業誘致パンフレット、グッズ等をご用意しておりますので、企業訪問時などにご活用ください。 ※訪問先企業につきましては、誘致の実現可能性や本市内事業所の有無などは問いません。事業所以外の場所で面談を実施していただいた場合も含みますが、オンラインによる面談は含みません。</p> <p>【参考：過去実績】</p> <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>各局室企業訪問件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>令和6年度</td><td>75件（暫定）</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>83件</td></tr><tr><td>令和4年度</td><td>31件</td></tr></tbody></table> <p>※各局室への依頼に対する報告を集計したもの（令和7年3月31日現在）。 ※令和6年度に各局室にて実施していただいた企業訪問のうち、未報告のものがございましたら、5月30日（金）までに、経済局（産業立地交流課）までご報告ください。</p>	区分	各局室企業訪問件数	令和6年度	75件（暫定）	令和5年度	83件	令和4年度	31件
区分	各局室企業訪問件数								
令和6年度	75件（暫定）								
令和5年度	83件								
令和4年度	31件								
備考									

(シティプロモーションに関すること 総務局企画課シティプロモーション推進担当 内線 4450)  
(企業訪問等に関すること 経済局イノベーション推進部産業立地交流課 内線 2423)

令和 7年 4月 7日

各局室区長 様

総務局長  
経済局長

### 首都圏出張時の企業訪問・企業情報の収集について（依頼）

本市への企業誘致を推進すること等を目的とし、課長級以上の職員が首都圏へ出張される際に積極的に企業を訪問し、企業情報の収集に努めていただくことを、昨年度までお願いしてきたところでございます。昨年度実績は75社となり、積極的なご協力に厚く御礼申し上げます。

今年度につきましても、当地域の経済の活性化のため、引き続き、企業訪問・企業情報の収集にご協力をお願いいたします。

なお、首都圏をはじめ、出張の機会を捉えて名古屋の魅力を直接伝えていただくことは、シティプロモーションの観点からも必要な取り組みとなりますので、積極的にご協力いただきますようお願いいたします。

#### 記

### 1 首都圏出張時における企業訪問・企業情報の収集

#### (1) 依頼内容

課長級以上の職員が、首都圏へ出張の機会に、企業を訪問し、本市のPRを行うとともに、本市への進出の可能性等についての情報を収集し、別添様式にて次のアドレス宛にご報告ください。（報告先アドレス：[a2423@keizai.city.nagoya.lg.jp](mailto:a2423@keizai.city.nagoya.lg.jp)）

- ※ 業務の都合等により企業には訪問せず、首都圏の他の場所で行われる場合も報告の対象としてください。
- ※ 必要な事項が記載されておりましたら、別添様式以外の任意の様式（復命書の写しなど）でご報告いただいても結構です。
- ※ 訪問先企業につきましては、誘致の実現可能性や本市内事業所の有無などは問いません。展示会など、事業所以外の場所で面談を実施していただいた場合も含みますが、オンラインによる面談は含みません。

#### (2) 実施時期

令和 8年 3月31日まで

※次年度以降につきましては、改めてご連絡させていただきます。

#### (3) 令和 6年度の企業訪問報告について

令和 6年度に実施していただいた企業訪問につきまして、まだご報告いただけていない場合は、お手数ですが、令和 7年 5月30日までに、別添様式または任意の様式にて、下記担当までご報告ください。

## 2 その他

企業訪問される際、イントラネットのページ「首都圏出張時の企業訪問・企業情報の収集について」をご参照ください。

(所属別ページ>経済局>イノベーション推進部>産業立地交流課

<http://js-intra-s.wsus.intra.city.nagoya.lg.jp/keizai/?p=251>)

また、本市の魅力や特色等の情報については、専用サイト「名古屋ビジネス進出サポートサイト」(<https://nagoya-potential.jp/>) または「名古屋市シティプロモーションサイト」(<https://www.promotion.city.nagoya.jp/>) をご参照ください。

(名古屋ビジネス進出サポートサイト)

(名古屋市シティプロモーションサイト)



企業訪問の際にご活用いただける誘致用パンフレット、グッズ等を産業立地交流課にてご用意しますので、訪問日の前日までにご連絡ください。

シティプロモーションに関すること 企業訪問等に関すること	総務局企画課シティプロモーション推進担当	内線4450
	経済局イノベーション推進部産業立地交流課	内線2423

## 企業情報 報告フォーマット

※ 記入できる範囲で結構です。  
以下の内容が記載された任意様式（復命書の写しなど）でご提出いただいても結構です。

訪問日	令和 年 月 日		
訪問者	(所属)	(補職)	(氏名)
訪問先企業	企業名		
	面談相手	(役職・氏名)	
		(mail)	(tel)
	訪問場所 (面談場所)	本社・本社以外（施設・会場の名称： ）	
	ヒアリング 内容	(記載例) ・〇〇業界では、優秀な人材確保のため、大学や専門学校との連携を強め、学生確保に取り組んでおり、大学や専門学校が多い〇〇地域へ進出する企業が増えている。 ・当社は新たな開発拠点の設置を検討中。福岡や仙台、名古屋などが候補。	
備考	名古屋市内の 事業所の有無 (選択▽)		
	企業誘致担当課 の訪問等可否 (選択▽)	訪問等可の場合 関心がある事項	補助金制度 ・ インキュベート施設等 産業施策 ・ その他 ( )
	所感など		

ご記入有難うございました。文書交換又は電子メールにて、下記担当までご提出ください。

【提出先】 経済局イノベーション推進部産業立地交流課産業立地交流係 担当：小林、小川  
( MAIL : a2423@keizai.city.nagoya.lg.jp 内線 : 2423 )

事項	ミャンマー地震に対する募金活動の実施について
内容	<p>令和7年3月28日にミャンマー中部で発生した地震被害に対し、下記のとおり救援金の募金を行うことにいたしましたのでお知らせいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 募金箱の設置</p> <p>(1) 受付期間 令和7年4月8日(火)から令和7年6月13日(金)まで</p> <p>(2) 設置場所</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・名古屋国際センター(中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル3、4階)</li><li>・市民活動推進センター(中区栄三丁目18番1号 ナディアパークデザインセンタービル6階)</li><li>・港防災センター(港区港明1丁目12-20)</li><li>・名古屋市観光文化交流局国際交流課 (中区三の丸三丁目1番1号 市役所本庁舎5階)</li></ul> <p>2 各局区室の職員からの募金 各課・公所ごとに募金を取りまとめ</p> <p>3 募金の扱いについて 集められた募金は、日本赤十字社が行う「2025年ミャンマー地震救援金」に寄附いたします。</p> <p>参考：令和6年12月末現在の名古屋市内のミャンマー国籍の住民数は、2,646人となっております。</p>
備考	本件は本日市政記者クラブへ資料提供します。



<p>事項</p>	<p>「水の環復活なごや戦略実行計画2030」の策定について</p>
<p>内容</p>	<p>健全な水循環の回復のため名古屋市が多様な主体の協力を得ながら、2030年度までに重点的・優先的に取り組む具体的な事柄などを示した「水の環復活なごや戦略実行計画2030」を策定しました</p> <p><b>1 計画策定の趣旨</b> 都市化にともない水循環の様相が変化し、様々な問題が生じている状況を受け、健全な水循環の回復をめざして「水の環復活2050なごや戦略」及び実行計画を策定し、取り組みを推進してきました。 これまでの実行計画を進める中で明らかになった課題への対応や国の動き、本市のまちづくりの状況などを踏まえ策定したものです。</p> <p><b>2 計画期間</b> 令和7（2025）年度から令和12（2030）年度</p> <p><b>3 冊子の閲覧・概要版の配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市公式ウェブサイトに掲載</li> <li>・市民情報センター、区役所、市図書館、環境学習センター等</li> </ul> <p><b>4 パブリックコメントの結果</b> 令和7年1月20日から2月18日まで実施したパブリックコメントに寄せられた市民意見の内容及び本市の考え方について、名古屋市公式ウェブサイトで公開するとともに、上記の冊子の閲覧場所で配布します。</p>
<p>備考</p>	<p>本件は、令和7年3月28日に市政記者クラブへ資料提供しました。</p>

わ  
水の環復活  
なごや戦略  
実行計画  
2030

水循環機能を活かしたまちの実現に向けて

概要版



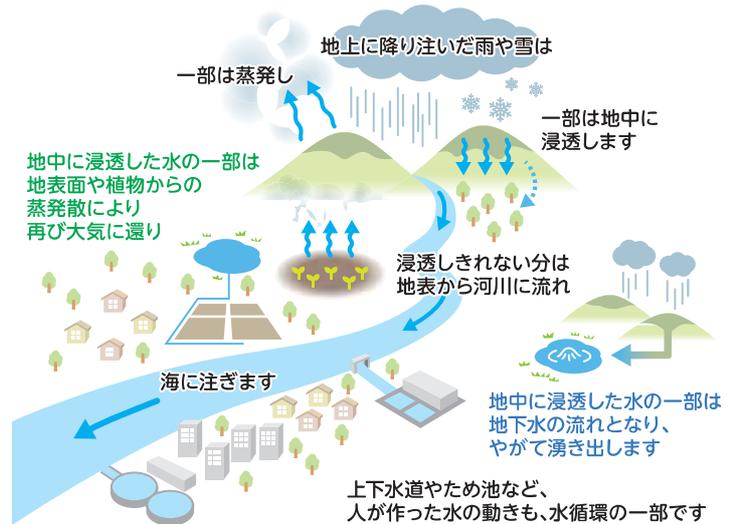
令和7年3月 名古屋市

## ●水循環とは

地上に降り注いだ雨や雪は、一部は蒸発し、また一部は地中に浸透します。浸透しきれない分は、地表から河川に流れ、海に注ぎます。

地中に浸透した水は、一部は地表面や植物の葉からの蒸発散により再び大気に還り、また一部は地下水の流れとなり、ゆっくりと河川や海へと至り、やがて再び湧き出します。

このように、水が気体・液体・固体と姿を変えながら地球をめぐることを「水循環」といいます。



## ●計画策定の背景

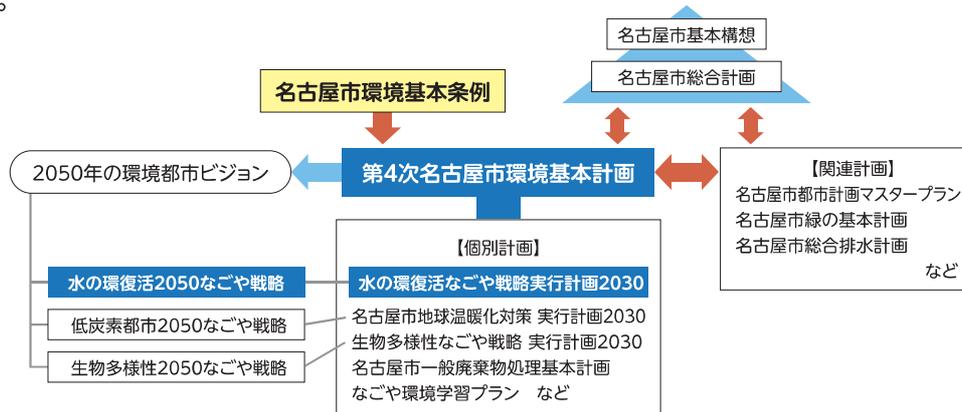
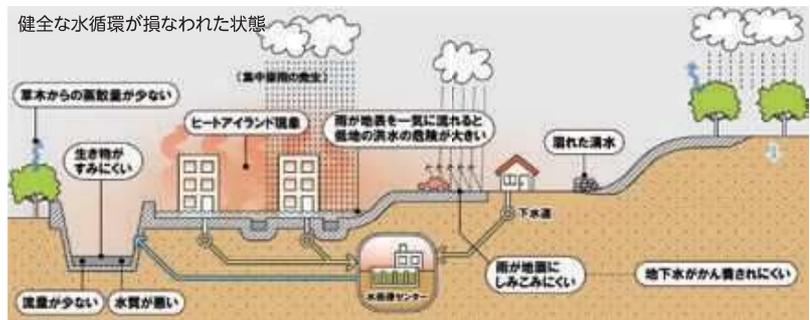
●名古屋市では、市街地の整備や拡大に伴い生活は便利になりましたが、雨を貯留浸透、蒸発散しにくい地表面が広がることになりました。これらはヒートアイランド現象や水災害の発生、河川等の流量減少に伴う水質悪化などの一因となっていると考えられます。

●2008(平成20)年度に策定した「水の環復活2050なごや戦略」(以下「水の環戦略」といいます。)は、雨水の貯留浸透や蒸発散を増やし、水循環を健全な状態にすることで実現したい2050年の名古屋の姿を描いています。

●これまで、第1期実行計画(2008(平成20)年度策定)、第2期実行計画(2014(平成26)年度策定)に基づき取り組みを進めてきました。

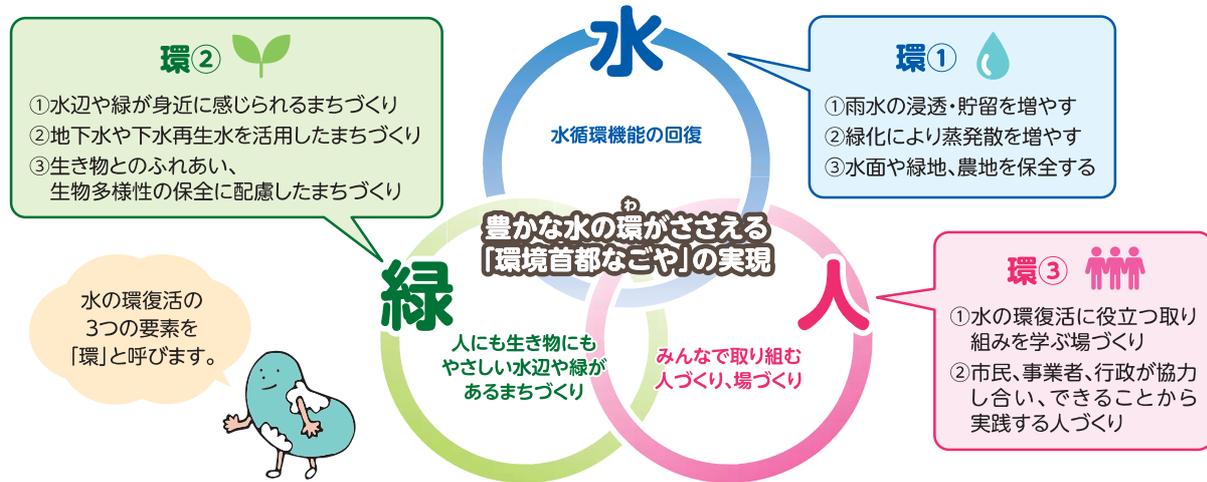
●取り組みを進める中で明らかになった課題や、近年の水循環に関連する法改正などの動き(水循環基本法や流域治水関連法、グリーンインフラ推進戦略など)に早期に対応し、リニア中央新幹線の開業等に合わせたまちづくりの機会を捉えて、健全な水循環の回復につながる取り組みを推進するため、水の環復活なごや戦略実行計画2030(以下「本計画」といいます。)を策定しました。

●本計画は、水の環戦略と第4次名古屋市環境基本計画におけるビジョン、方向性を踏まえ、名古屋市が多様な主体の協力を得ながら、2030(令和12)年度までに重点的・優先的に取り組む事柄について、より具体的に示すものです。



## ●「水の環復活」とは

名古屋市では、雨水の浸透・貯留や蒸発散を増やし(環①:水循環機能の回復)、水循環の機能を生かした魅力的なまちづくり(環②:人にも生き物にもやさしい水辺や緑があるまちづくり)を、多くの人の協力により行うこと(環③:みんなで取り組む人づくり、場づくり)の3つをあわせて「水の環復活」と呼んでいます。



## ●第2期実行計画の主な課題

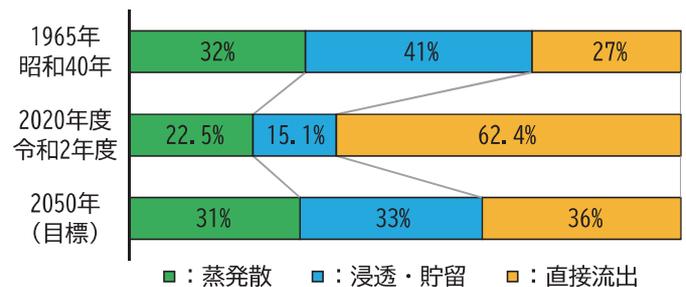
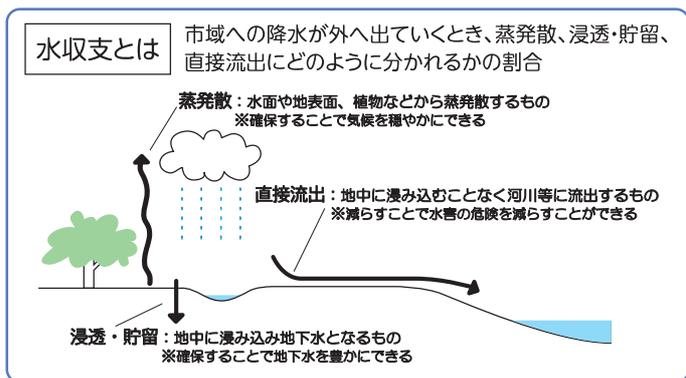
### ① 雨水の浸透・貯留、蒸発散

水の環戦略では、水収支を進行管理の指標とし、2050年の理想として高い目標を掲げました。

雨水貯留浸透施設の設置や緑の保全・創出などを行ないましたが、2020(令和2)年度の目標(蒸発散:25%、浸透・貯留:18%、直接流出:57%)を達成することはできませんでした。今後、さらに取り組みを進めていくことが必要です。

また、水収支は、市域の水循環の状況を大まかに把握することには優れている一方で、市街地における個別の取り組みが見えにくくなってしまったという課題も明らかになってきました。

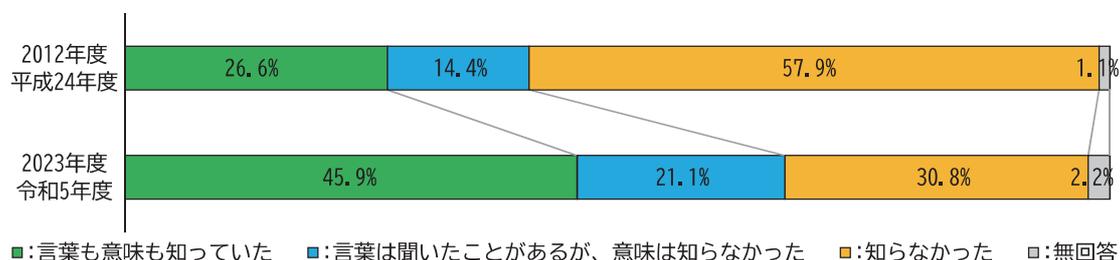
今後は、2050年の目標を見据えて水収支の把握を継続しながらも、個別の取り組みを的確に評価する指標の設定が必要です。



### ② 水循環の認知度・理解度

健全な水循環の回復に向けた取組実践には、水循環についての理解が必要であることから、エコパルなごやでの水循環学習プログラムの公開、講座やイベント出展など、水循環について知る機会づくりを重点的に行いました。

市民アンケートでは、「水循環という言葉も意味も知っていた」と答えた市民が令和5年度において45.9%と、第2期実行計画策定前(平成24年度)より増加しているものの、多くの人が水循環に配慮した暮らし方をするような将来に向けて、今後も継続して情報発信に取り組んでいくことが必要です。



## ●2030年にめざす状態

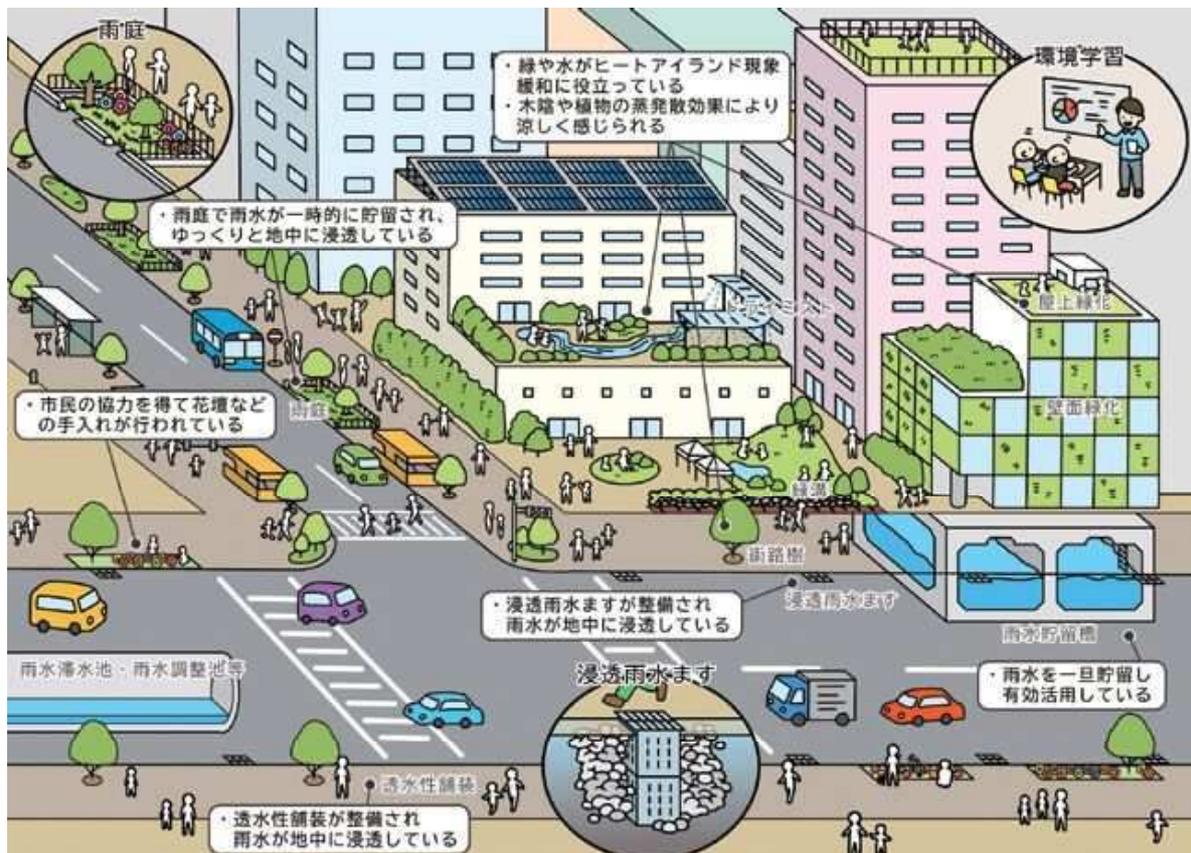
本計画では、水の環戦略に示した「2050年までにめざす状態」の実現に向けて、雨水貯留浸透施設の設置や、緑の保全・創出などの取り組みを引き続き行うとともに、地下水や湧き水を活用した地域づくり等を通じて、水循環機能が活かされたまちをめざします。

また、水循環の多面的な効果や先進的な取組事例などを様々な機会や媒体を通じて情報発信することで、多くの市民・事業者が水循環の問題を理解し、水の環を意識した行動を実践していくことをめざします。

時 期	行政の計画や施策など	市民・事業者など
2030年にめざす状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市施設や民有地における緑化、雨水貯留浸透、雨水利用等の施策を着実に実施しています。</li> <li>●グリーンインフラ、流域マネジメント、地下水の適正な保全及び利用などを取り入れた施策により、水の環復活に向けた地域づくりを一部で始めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多くの市民・事業者が、水循環について理解し、水の環を意識した行動を実践しています。</li> </ul>
2050年までにめざす状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内全域で、多様な主体の協働により水の環復活に向けた地域づくりを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水循環に配慮した生活・事業活動が標準となっています。</li> <li>●多くの人々が、自分に合った方法で水循環に配慮した地域づくりに参画しています。</li> </ul>

2030年にめざす状態を「オフィス・商業地(都心部)」、「住宅地(身近な生活空間)」、「郊外(自然の多い空間)」の3つの場面に分けて描きました。

### オフィス・商業地(都心部)



## 住宅地(身近な生活空間)



## 郊外(自然の多い空間)



## ●3つの環ごとの取り組みと指標・目標

2030年にめざす状態に向けて、3つの環それぞれについて、施策と、対応する指標と目標、重点的に取り組む施策を設定します。



### 環①：水循環機能の回復

- ✓ 緑の創出及び保全
- ✓ 市や民間施設等への雨水貯留浸透施設の設置の推進
- ✓ グリーンインフラを活用した雨水の貯留浸透

指標	現状(2023年度)	目標(2030年度)
新たに確保された緑の面積(累計)	136ha(3か年)	400ha(10か年)
市施設における新築・改築等に合わせた雨水流出抑制施設の設置	実施	継続実施
水循環を理解し、水循環に配慮した暮らしをしている市民の割合	9.3%	15%
市内の雨庭の新規設置数(民間含む)	—(新設)	10か所以上

#### 重点施策：グリーンインフラを活用した雨水貯留浸透

- 雨庭(レインガーデン)の試験整備や追跡調査、情報発信等を行う



### 環②：人にも生き物にもやさしい水辺や緑があるまちづくり

- ✓ 地下水の活用や多自然川づくり等により人にも生き物にもやさしい水辺や緑があるまちづくり
- ✓ 再開発等の機会を捉えて水循環機能の活用を推進するための必要な情報提供・調整
- ✓ 地下水の保全・活用等による地域の課題解決や魅力向上

指標	現状(2023年度)	目標(2030年度)
水辺や緑が身近に感じられると思う市民の割合	66.6%	70%
名古屋の河川の水がきれいだと思う市民の割合	34.7%	40%
市内における自然共生サイト認定数(累計)	2か所	5か所以上

#### 重点施策：水循環機能を活かした地域の魅力向上

- 個別エリアの地下水の保全・活用等を行い、地域の課題解決や魅力向上につなげる



### 環③：みんなで取り組む人づくり、場づくり

- ✓ 水循環学習プログラムの上映や講座、緑のまちづくり活動の推進等によるみんなで取り組む人づくり、学ぶ場づくり
- ✓ 水循環に関心がなかった人に興味を持ってもらうきっかけづくり
- ✓ 市民や事業者の取り組みを促進する仕掛けづくり

指標	現状(2023年度)	目標(2030年度)
水循環について理解している市民の割合	45.9%	50%
水循環に関する講座等の参加者数(累計)	950人	7,000人(7か年)
なごやSDGsグリーンパートナーズ登録認定数(累計)	2,916件	4,300件
「なごや環境大学」を支える団体数(累計)	526団体	580団体*

※名古屋市長官舎総合計画2028での2028年度における目標

#### 重点施策：水循環の自分事化を進める仕掛けづくり

- 市内の水にまつわる歴史と絡めて水循環の情報を発信するなど、水循環について知る機会をつくる
- 取組実施のインセンティブとなるよう、先進的な事例を表彰するなど、実践の環の広がりをめざす

## ●水の環復活のため、あなたに合った取り組みはどれ？



まちなかに  
住んでいてもできる  
メニューを紹介



### 庭や駐車場などで

- ✓ 雨水タンクや浸透雨水ますを設置してみよう
  - ➔ 助成制度が利用できます
- ✓ 舗装を工夫したり、雨庭を作ってみよう
  - ➔ 名古屋市公式ウェブサイトで事例等を紹介します



### 緑の保全・創出で

- ✓ 森づくりに参加してみよう
  - ➔ なごやの森づくりパートナーシップ
- ✓ 農地を借りて野菜を育てよう
  - ➔ 市民農園を借りる
  - ➔ 農地バンク制度を利用
- ✓ 緑のカーテンなどプランターで植物を育てよう
  - ➔ 緑のカーテンづくり「なごや隊」
- ✓ 庭を緑化しよう



緑のカーテン



収穫体験



なごや西の森づくり

### 水辺で

- ✓ 生き物観察会に参加してみよう
  - ➔ なごや環境大学、なごや生物多様性センター
- ✓ 藤前干潟について学んでみよう
  - ➔ 藤前干潟ふれあい事業に参加しよう
- ✓ 身近な河川やため池の水質について調べよう
  - ➔ 水質モニタリングに参加しよう



生き物観察会



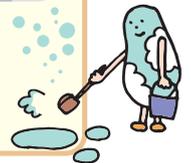
藤前干潟

### 日常生活で

- ✓ 夏の朝夕には打ち水をしよう



- ✓ 買い物に地産地消の視点を
  - ➔ 「なごやさい」を食べてみよう
  - ➔ 木曽川水源地の間伐材を使ってみよう



### 事業者の取り組みで

- ✓ CASBEE名古屋で建築物の環境配慮を評価しよう
- ✓ なごやSDGsグリーンパートナーズに登録しよう
- ✓ なごや環境大学で講座などを開催しよう
- ✓ 公開空地の整備を
  - ➔ Nagoyaまちなかオープンスペース制度
  - ➔ 公開空地等環境整備助成金
- ✓ 市民農園を開設しよう



## 公共空間の手入れで

✓まちなみ美化活動に参加してみよう

➔名古屋クリーンパートナー制度



✓公園などでの清掃や花壇活動に参加してみよう

➔愛護会活動、なごや花の環ネット

✓プロギング\*に参加してみよう

\*ゴミ拾い(Plocka Upp)とジョギング(Jogging)を合わせたスウェーデン発Newフィットネス



## 学びで

✓施設で学ぶ

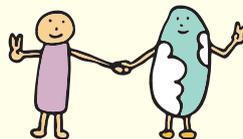
➔エコパルなごや、下水道科学館なごや、水の歴史資料館

✓講座で学ぶ

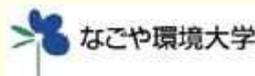
➔なごや環境大学共育講座

✓イベントで学ぶ

➔環境デーなごや、水フェスタなごや



エコパルなごや  
バーチャルスタジオ



# 水循環に関する支援制度、事業の詳細



取り組みを後押しする制度や事業の詳細のリンクを  
名古屋市公式ウェブサイトに掲載しています



## 雨庭とは?

- 屋根や舗装面に降った雨水を下水道にそのまま流さずに一時的に貯めて、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間のことです。
- 雨水流出抑制の効果に加え、地下水涵養・河川の汚濁負荷軽減・ヒートアイランド現象の緩和などの効果も期待され、「グリーンインフラ」の一つとして注目されています。



## 舗装の工夫の例

- 透水性舗装  
舗装に空隙があり、表面の雨水を地盤へ浸透させるものです。
- 保水性舗装  
舗装の中に水をため、晴天時に水分が蒸発し、水の気化熱により路面温度の上昇を抑制するものです。
- 環境に配慮した舗装の例
  - ・枕木舗装  
木材と敷き砂、ブロックなどを組み合わせた舗装方法。透水性が高く、自然素材の魅力を活かし、庭や玄関先のアクセントとして人気があります。
  - ・ウッドチップ舗装  
細かいウッドチップを凝固材を使って締め固めた舗装です。クッション性が高く、庭の小道に利用するなどにより、木材特有の風合いを楽しむことができます。
  - ・砂利舗装  
砂利を使った舗装です。轍やくぼみができないように、砂利舗装安定材を敷きその間に砂利を敷き詰める工法もあります。